の水の広ごり

大いなる水と強き風とのます。これである。 厚き雲の低くたれたり 陽の光水の面にわたらず 去にし全ての名残りをしるす

須臾なる静けさ今ぞ破れんしゅゆしずいまでが

無限の過去の名残りを無みと

今こそ吾等雄々しく立たんいま しゅいち おおり おおり たん

核崩壊なる強き力は 時の声の高く顕る 屈辱の条文は結ばれ 生命と愛とを毀ち捨てなんいのち、あい

再び過去の犯ちせじと 今こそ吾等凛乎と起たんいま

再びす宣臂の叫び

血をもて験りし訓えを忘る

なりないました。

牧^まき場ば 北たくに国に

の草の色の濃緑さよ

の樹々の直

さよ

潮風荒べ 打ち耐え[、] 永き冬厳, たる姿美わ しき試練に すがたうる

名もなき草木の生をば享受ぬ る荒磯にさえ

自然の真理の頌歌を唱しばんしんりしょうからた 今こそ吾等深く究めいま h

村 Ŀ 田 畑 実 司 君 君 作 作 歌 Ш